

9.高知医療センター・高知県立大学包括的連携事業：看護・社会福祉連携事業

1)看護・社会福祉連携事業について

高知医療センターと高知県立大学は、医療・健康・福祉・栄養分野における交流連携を推進し、双方の実践、教育、研究の質向上を図るとともに、地域・社会への貢献を促進するため、平成22年11月に両組織間の包括的連携協定を締結した。これは、高知医療センター看護局と本学看護学部が、よりよい看護の実現を目指して平成18年から取り組んできた看護連携型ユニフィケーション事業を発展させたものである。現在はこの協定に基づき、全体を統括する包括的連携協議会の下に、健康長寿・地域医療連携部会、看護・社会福祉連携部会、健康栄養連携部会、災害対策連携部会の4部会を設置し、さまざまな連携事業を展開している。

このうち看護・社会福祉連携部会では、看護および社会福祉に関する連携事業として、①学生の臨地実習・教員の臨床研修における場の提供、②基礎教育・継続教育・大学院教育における相互協力、③教員によるコンサルテーションの実施、④臨床実践能力（知識・技術・態度）及び実践モデル等の開発・検証に関する共同研究、⑤県民・市民の健康づくりに資する活動の共同開催、⑥その他看護・社会福祉連携活動の実施、を行っている。

(1) 看護・社会福祉連携部会の委員および活動状況

令和4年度は部会委員を、高知医療センター19名（看護局7名、地域連携室12名）、高知県立大学10名（看護学部7名、社会福祉学部3名）、計29名で構成し、活動を推進した。今年度は本学看護学部が部会長および事務局を務めた。

看護・社会福祉連携部会では、COVID-19の影響もあったが、下記のとおり1回のメール会議と1回の部会会議を開催した。また適宜、情報交換や相談を行いながら、事業を進めた。

・第1回看護・社会福祉連携部会（メール会議）：9月

上半期の事業実績および下半期の事業計画の確認、COVID-19による影響の把握

・第2回看護・社会福祉連携部会：2月9日開催

事業実績および活動評価の確認、次年度の活動に向けた課題の検討、次年度の事業計画の検討等

(2) 看護部会における事業実績

今年度もCOVID-19の影響により中止となった事業があったが、開催方法の工夫等を行いながら実施した。最終的な事業実績は表1のとおりである。

表1 令和4年度看護部会における包括的連携事業実績

1. 学生の臨地実習・教員の臨床研修における場の提供

1)学部生および大学院生の臨地実習

学部生：急性期看護実習、慢性期看護実習、母性看護実習、小児看護実習、総合看護実習（急性期看護・慢性期看護・小児看護・助産看護領域）、看護管理実習（急性期看護・慢性期看護・小児看護領域）、助産看護実習Ⅰ のべ204名

*COVID-19に伴う中止・変更

看護基盤実習、助産看護実習Ⅰ（8～9月）・Ⅱ、看護管理実習（助産看護領域）は受入れ中止。領域別看護実習では実習期間を短縮。

大学院生：慢性看護学実践演習Ⅳ、クリティカルケア看護学実践演習Ⅴ（遠隔）、小児看護学実践演習Ⅰ・Ⅳ、がん看護学実践演習Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ のべ8名

*COVID-19に伴う中止・変更

家族看護学実践演習Ⅴは臨地実習の受入れ中止、クリティカルケア看護学実践演習Ⅴは遠隔実習に変更、がん看護学実践演習Ⅰは実習期間を変更。

2)大学院生および教員の臨床研修

大学院生：緩和ケアカンファレンス・キャンサーボードへの参加（がん看護学領域、5回・のべ8名）、小児科医開催のカンファレンスへの参加（小児看護学領域、2回・のべ2名）